



# 新 着

REVIEWER = 本誌編集部員  
戸鷹(戸)藤井(藤)西田(西)三槻(三)別井(別)太田(太)河内(河)三島(み)

編集部が厳選!

100 point

編集部が集めた新着コンテンツを各編集部員独自の視点でレビューします。  
(ポイントは100点満点によるもの)

### 編集部からのお願い

当コーナーまで新着コンテンツのプレスリリースをお寄せください。なお、掲載についてのお問い合わせにはお答えできませんのでご了承ください。プレスリリースはこちらまで

im-release@impress.co.jp

コ

ン

テ

ン

ツ

レ

ビ

ユ

ー

## MONTHLY CROSS REVIEWS

## ブロードバンド時代のポータルとは.....

BB. BIGLOBE [bb.biglobe.ne.jp](http://bb.biglobe.ne.jp)



メニューをカスタマイズする際に使うコンビニとかパレットという独特の作法が好き嫌いの分かれるところ。リテラシーを要求するので、便利そうでは実は敷居が高いという、ありがちな構図に。覚えても他のサイトで使えないし、用語や操作方法に一貫性があるとも思えない。操作性ばかりが気になって、肝心の内容に言及できないのは深謀遠慮のなせるワザ? (戸)

入り口ではなく、常に立ち上げたまま滞在する場所として開発されたポータルサイト。滞在するのならポータル(玄関)じゃない気もするけど。それはともかく、Flashを使い、ブラウザ上にまたウインドウを広げ、最新ニュースや天気予報、メール着信チェックなどの情報が見られる。まだコンテンツ不足の感が拭えないが、Flashによる新しい試みとして、今後に期待したい。(み)

ニュースや検索などの「ポータルの」コンテンツをBB対応にしてみました、といったところか。最新情報がプッシュ技術を使って更新されるのも確かに「BB対応」が、サイトの構造はカスタマイズ性が高く、簡単に使えるとは言えない「濃い人」向けの仕様になっているところも「BB対応」だと言うのなら、ポータルサイトのブロードバンド戦略には再考の余地がある。(藤)



BIGLOBEによるブロードバンドユーザーのためのポータルサイト。ニュースや天気予報、各種動画コンテンツなどがブロック状に配置され、レイアウトを自分でカスタマイズできるようになっている。ブロードバンド向けと言えるのは、メールを定期的にチェックしてお知らせする機能と、動画コンテンツぐらいなので、ここをどう強化できるかがポイントになりそう。(三)

ブロードバンドのポータルサイトと聞くと、ストリーミング番組でも配信しているのかと思ってしまふけど、「BB.BIGLOBE」はトップページが全面FlashでできているのでBBなんです。ブロードバンドの普及によってプロバイダーのウェブサイト環境もHTML一辺倒からFlashのような動的なものへと変わっていきんだと改めてADSLの普及度合いに驚いた次第です。(西)

最初に「全画面表示」か「ブラウザ内表示」かを選択する。推奨ブラウザはIE5.0以上と表記されているが、同エンジンを使ったタブブラウザでは、どちらの表示方法を採用してもきちんと表示されなかった。コンテンツが表示される「パレット」を追加したり、レイアウトを変更したりできる。しかし、パレットの大きさを変更できないなど、使い勝手がいいとは言えない。(別)

## 「どんな強い男でも負けるときはあるんだよ」がない!

東映アニメBB [www.anime-bb.com](http://www.anime-bb.com)



東映のアニメが月1,000円で見れるこのサイト。現在(12月16日)のラインナップは、『北斗の拳』『銀河鉄道999』『マジンガーZ』『デビルマン』など。ただし、配信されている話ごとびとびになっていて、『銀河鉄道999』の傑作、2話の『火星の赤い風』が見られない!『どんな強い男でも負けるときはあるんだよ』など、ここに名言が詰まっているのに……、かなり減点! (河)

狼少年ケンと宇宙パトロールホッパがいきなり見られるのは、だが、毎週5作品が見放題という発想は×。テレビと同じようなシステムに課金してどーするんだと思うのは私だけ? 東映の全アニメのアーカイブから任意の5本を選んで見られるというなら、だけど、実現するには東映の投資額がゼロ2つくらい跳ね上がる。黎明期のどりあえず感が付きまとう。仕方ない? (戸)

アニメ製作の老舗、東映アニメーション製作の懐かしいアニメが見られるこのサイト。北斗の拳、銀河鉄道999、マジンガーZと、一昔前なら夕方に再放送していたようなラインナップが勢揃い。月額1,000円で毎週5作品という価格設定は、個人的にはやや高く感じる。最近、旧作アニメのDVD-BOXも増えてきたことだし、その宣伝と揃えて安くはできないものだろうか。 (三)

## アート作品が買えるバーチャル美術館

Virtual Museum of Art Japan [www.artnet.jp](http://www.artnet.jp)



Viewpointというプラグインを利用することで、絵画や彫刻などの作品を自由に拡大縮小させながら鑑賞できる。しかし、これらは生で鑑賞するに比べるとモニター上で提供するのは無理。これまでの形式の美術品ではなく、パソコンでの表現を前提としたものを鑑賞させてくれないか、そのような考えはなさそう。 (み)

「芸術家と愛好家を結ぶ」をコンセプトに、芸術作品の仮想展示とオークション販売を行う。仮オープンを見ても優雅な気分は浸れ、どのような作家陣が登録されるかを楽しみた。なかなか画廊や美術館に行く機会がないという人にはうつつ。仕事に疲れたときなど、ちょっと覗いて癒されたい。Viewpoint技術で各作品を拡大して隅々まで見られる。 (太)

ファインアートとブラウザーの間にはいつも高い垣根があるように感じる。現実の美術館に向いて作品を見るのと、ブラウザー上で見るのとは根本的に違うものだ。ブラウザーで展示作品を鑑賞してみるが、これといった目新しさはない。唯一サイト構築者の意地が感じられるのは、Viewpointを使って展示作品を見られることくらい。美術館というよりアートショップめいたサイト。 (西)

## 経済ニュースこそアーカイブ化を!

ブロードバンドサテライト [bb2.tv-tokyo.co.jp/bbs/](http://bb2.tv-tokyo.co.jp/bbs/)



3月31日までの期間限定サービス、月額735円で週一の更新という自論の真意がくみ取れない。トライアルの後、新年度スタートということか。報道TV番組のアーカイブだけではブロードバンドが成立しないことを、このサイトを見ていて痛感する。何が足りないのかは分からないが、+ が小谷真生子の艶めかしい笑顔だとしたら、それはそれで完璧に不足している。 (戸)

経済関連のニュースを得意にしているテレビ東京ならではのコンテンツだが、現状では内容が不足気味。「ワールドビジネスサテライト」の名称物コーナーである「トレンドたまご」を、過去の放送分すべてをアーカイブで見られるのはおもしろいが、できればニュースも含めてすべてをアーカイブ化してもらいたいところだ。配信されている動画の音質が悪いのもマイナス点。 (三)

「ワールドビジネスサテライト」をテレビで見たけれど、残業が多いのでなかなか見られない。そんな人におすすめなのがこのコンテンツ。番組出演のコーナーによるオリジナルインタビューなどが視聴できる。しかし、2003年3月31日までの期間限定トライアルコンテンツで、月額利用料700円は私には高いと思う。この料金ならば、HDDレコーダーにテレビ放送をため込むかな。 (別)

## 『Number』発のスポーツ情報サイト

goo Sports : Number Web [number.goo.ne.jp](http://number.goo.ne.jp)



雨後の竹の子のごとく登場する動画コンテンツに対するNumberの答えは明快だった。『Number』はやっぱり『Sports Graphic』なんだな(意味がわからない人は同誌の表紙を!)。レポートやコラムは読みごたえがあり、ニュースサイトの速報性も高い。拡大表示できる綺麗な写真(Graphic)はウェブでも健在。でもやっぱり動画レポートも見たいというは欲張りか。 (藤)

まさに、『Number』がそのままウェブになった感じで、写真のクオリティや読みごたえ十分のコラムと見て飽きないサイトだ。競技別、カテゴリ別のインデックスも、次から次へとサイトを渡り歩いて、ブロードバンドが主流になってきたとはいえこの配慮は嬉しい。gooとの提携により、今後はコミュニティ機能や動画配信も予定しているとのこと期待十分。 (太)

ポータルサイト「goo」のスポーツカテゴリとして誕生した「Number Web」。AP通信の注目スポーツニュースを掲載したりしているのだが、おもしろいのは『Number』の記事のほう。しかし、この記事も本誌誌面のようにうまくビジュアルを使って……というのではなく、ほぼテキストのみ。ビジュアル誌のウェブなんだからもっとビジュアルに力を入れることを期待します。 (河)

# ドラマ製作の裏側と主演女優の魅力満載

BROADBAND WONDERLAND [www.bbwonderland.com](http://www.bbwonderland.com)



谷口絵梨さんの撮り下ろし未公開写真やストリーミングによる独占インタビューなど、ファンにはたまらないサイトだろう。12月20日からは市川由衣さんのサイトもオープンするが、残念ながら2人とも私は存じ上げず。コンテンツの目玉は、主演するドラマが完成するまでの過程を「企画会議」の段階から配信すること。でも、まさかこの会議自体に台本があることはないですよね? (別)

1月のドラマ公開に向け、12月からメイキング映像や写真、主演の谷口絵梨がDJを務めるラジオなどを無料で公開している。1人のアイドルを売り出すのに、核としてドラマを作り、そしてそのメイキングなどの関連商品を先に小出しにする手法はおもしろいと思う。ただ、まずアイドルありきのコンテンツなので、この作品自体を気に入るかどうかは個々の好みで……。 (み)

読売テレビと芸能プロダクションの研音がタッグを組んでネットドラマを製作。ドラマの完成を待たずに、主演女優 谷口絵梨と市川由衣の魅力あふれるコンテンツを先取り配信する。ここは一風変わったドラマサイト。月800円の有料コンテンツだから、製作裏話だけじゃなく、写真集やラジオ番組も作って女優を全面に打ち出している。その徹底した心意気が痛快。 (太)

# 証券会社もブロードバンドコンテンツを!

ダイワインターネットTV [www.daiwa.co.jp/bb/](http://www.daiwa.co.jp/bb/)



良くも悪くも大人しくまとまっている。内容的にも投資入門や1日のサマリーとしての色が強い。衛星やCATVの経済番組のアーカイブ的な構成を見ると、投資家がインターネットというメディアに求める投資情報を改めて考え直す必要性を感じてしまう。短波ラジオの市場中継の存在意義から考えると、こうしたサービスも「立会い中は現場から生中継!」くらいのダイナミズムがほしい。(藤)

マーケット情報やアナリストレポートをオンデマンドの映像で見られるのだが、映像にする意味をまったく感じられない。タイムリーに提供されるテキスト情報のほうが重要だと思うのだけど……。映像を使うのならば、ライブストリーミングで矢継ぎ早に情報を提供するくらいにしないと利用する気にならない。今はともかく、将来的にはそのあたりを志向しているのかな? (み)

「AlwaysChannel!」をブラウザで表示しておけば、最新のマーケット情報やマーケット解説などが自動的に配信される。まさにテレビ感覚で使える株情報コンテンツと言える。このほか、NYアナリストレポートは動画のほかにPDFでも資料が用意されているのでわかりやすい。「あの日の市況はどうだったか」と過去の市況を検証できるようにバックナンバーを用意してほしい。(別)

# TV感覚で楽しむSo-netのBBポータル

So-net TV [www.so-net.ne.jp/sotv/](http://www.so-net.ne.jp/sotv/)



24時間オリジナル番組を放送中。コンテンツそのものよりも、とにかく気になったのが操作性。TVビューアーでは現在放送中の番組を流しているのだけど、ブラウザの右に表示されるコンテンツメニューは独立していて番組との関連性はない。番組冒頭で利用法が解説されるが、それを聞き逃すと意味不明。利用ガイドをテキスト化しないのもTVのこだわり?! (太)

現在プレオープンということで無料放映中の「So-net TV」。放送内容も本当にプレ! 平日の17時~26時、土日の14時~26時に約10のオリジナル番組を放映しているが、どうしても「見たい!」というものはない状況。来年始まる本放送までどれだけのコンテンツをそろえられるかが勝負なのだが、ソニーグループということで、結構いい映画とか音楽を期待しています! (河)

VAIOにコンテンツを蓄積させてテレビで見る、なんて楽しみ方を提供できるのがソニーの強みだと思っていたのに、So-net TVはほのほのストリーミングしかありません。独自作成のコンテンツが少ない今こそ、ソニーの家庭内ネットワークを実感させてほしい。ところで肝心の番組内容ですが、パソコンを立ち上げてまで見るほどのものはなかったです。 (み)



So-netがついにテレビ局を開局、しかも24時間放送! ということだが、さすがに一部は再放送。個人的におもしろかったのは、製作者自身がSo-net TVのありかたを話し合う番組「So-net TV会議」。どうやって視聴者を増やすか、今後の戦略はいかに。こんなに話して大丈夫? な本音トーク。実はこういう番組こそ、インターネット放送局向きなのかも知れない。 (三)

仕事しながらダラダラとテレビが見られたらいいなと思うことがよくあるけど、So-net TVはそういうニーズを満たしてくれそうな気がする。独自のストリーミング番組が日替わりでオンタイムで放送されている。ただ、番組自体が少ないのに加えて、放送時間も非常に限られている問題もある。このほかSo-netの他のコンテンツと連動したナビゲーションも興味深い。 (西)

「黎明期だからね、とりあえず何でもアリということで、よろしく」と言ったんだろうなあ、会議で部長が。何がどうというわけではないけど、番組を見ているとプレスト会議の景色が脳裏に去来するのは不思議。曰く言い難いライブ感を醸し出しているのは、内容の方ではなくて、勝手に想像しているプレスト会議の模様の方かも知れない。実はものすごく深淵なのかも。(戸)

## 最新Jポップを使ったeカードが送れる

ミュージックイークラブ グリーティング [www.greeting.music-eclub.com](http://www.greeting.music-eclub.com)



音楽を添えてカードを送るサービスはほかにもあるけれど、ここはJポップのヒット曲がたくさん用意されていて、相手の好きな曲を見つけやすい。基本のカード用の素材も多く、あらかじめ用意されたテンプレートだけでなく、フラッシュのアニメーションを組み合わせた、文字の色を変えたりもできる。会員登録(無料)をすれば誰でも使えるという魅力。(太)

最近、グリーティングカードが送られてくるのがなくなってきたけど、この手のサービスはまだ健在のようだ。ヤマハによるこのサイトのおもしろいのは、グリーティングカードに音楽をつけたところ。カード自体カスタマイズも豊富で、曲を選んで、アニメーションも選べる。会員登録が必要なので、手続きが少し面倒だけど、たまにはテキストメールじゃないメールも送ってみたい。(西)

「どうせ普通のグリーティングサービスだろう」と思いきや、豊富な素材に驚いた。曲や背景、アニメーション、メッセージなどを順に選択しながら作成していくが、使用方法などを見なくても感覚的に使えた。できあがったあとで、文字の大きさやレイアウトなど一部を編集することも簡単。無料で試せるので体験してほしい。ただし、メモリーをかなり消費するようなので気をつけたい。(別)

## 「ていねいな商品解説」の効果やいかに?!

ライブドアストア [store.livedoor.com/lds/](http://store.livedoor.com/lds/)



単に商品を並べるだけでなく、それぞれの商品をていねいに紹介していきます。とうい触れ込みのショッピングサイト。特に目を引くのが、紹介する商品に関連したユーザーアンケート。たとえば故・山田康夫氏の追悼本なら、「ルパン三世で好きなキャラクターは?」といった具合。おもしろい試みで、アンケート結果も興味深い。これが購買欲につながるかに注目したい。(三)

「そりゃあECも楽しい」に越したことはない」と思った。トップページには日替わり商品が大きく紹介されているが、それが運営主の狙いにある「毎日訪れるのが楽しみになる」ほどエンターテインメント性があるように思えない。あの楽天でさえ「ショッピングはエンターテインメント」と昔から言いながら、検索やコンテンツ管理といった機能性の向上に注力しているのがECの現状です。(藤)

経営権がオン・ザ・エッジに移り、生まれ変わった「ライブドア」。その一環として、DVDソフトやPCソフトを販売するサイト「ライブドアストア」が登場した。ただしこのショッピングサイト、裏側は全部「アスキーストア」トップページがカスタマイズされ、毎日ライブドアオアスレの商品がピックアップされているが、なんとなく懐かしアニメ中心なのが、自分的には不満。(河)

## コンテンツクリエイター集合

iMedio BroadStar[イメディオ ブロードスター] [www.broadstar.jp](http://www.broadstar.jp)



大阪市のソフト産業プラザ イメディオが主催するコンテンツクリエイターの作品発表の場。ジャンルは問わずバラエティーに富んだ作品が並んでいて、一度見始めると次から次へと見てしまう。シニールな映像のショートムービーやつい手が止まらなくなるゲームなど、既存観念に捉われない見る側の創造力を掻き立てる作品が多数。ランキングもつい気になってしまふ。(太)

大阪市都市型産業振興センターが運営する、クリエイターの育成を目的としたサイトだそうである。そういう建前は置いておいて、ここに学生ながら自作のPVなどを公開できる仕組みは、ありがたいながらも好きだ。この素人丸出しコンテンツを観て、グラムロック風のPVを作ったときの同級生は何をしているんだろうかと、胸がキュンとすること請け合ひ。(河)

このサイトでは、クリエイターとビジネスマンのマッチングプレイスを志している。短編映像や音楽映像、ゲームの各カテゴリーにオリジナル溢れる作品が並び、評価が高いコンテンツは殿堂入りしてあげられる。こうしたシステムがクリエイターにとってビジネスにつながれば言うことないが、見るだけでも「野に偉人あり」が実感できて嬉しくなる。(藤)

## どこかで見たような「劇」的リニューアル

cinemacafe.net [www.cinemacafe.net](http://www.cinemacafe.net)



いかにも女の子向けの映画サイトという感じ。デザインはキレイでおしゃれだけど、サイトのユーザビリティは低くて、「どうやってレビュー本文を読むんだー」などと戸惑うことしばしば。あと、映画情報を扱うのなら、どの映画館でどの時間にやっているなどといった実用的な情報とのリンクがあるともっと便利だと思うんだけど、残念ながらそういうものはナシ。(み)

映画がどんなイメージで売り出されるかを決めるのが、雑誌だったりテレビだったりするわけで、映画サイトもそういうメディアに育つのかもという気もしています。そういう中で、cinemacafeは、どこかで見たような雑誌の映画特集とか映画誌がそのままウェブサイトになっています。「劇」的リニューアルだそうですが、もっと骨太であって思わせてくれるサイト作ってほしいですね。(西)

Flashなどを多用して、写真などがふんだんに使われるようになった。メールマガジンも新創刊されたが、こうしたビジュアル要素を意識してメールの形式はHTMLメールだ。HTMLメールの受信については嫌がるユーザーもいるだろう。残念だったのは、「この映画のレビューや情報を見たい!」と思ったときに探せないこと。各コンテンツのバックナンバーはあるが、検索機能をつけてほしい。(別)



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)